

# フクシマの教訓を踏みにじるな！ 玄海原発再稼働同意の撤回を！

2017年3月7日

玄海町長 岸本英雄 様

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会  
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会  
玄海原発反対からつ事務所  
今を生きる会

私たちは、本日、貴職が玄海原子力発電所3・4号機の再稼働について同意したことに強く抗議します。

田中俊一原子力規制委員長は「審査はするが安全とは申しあげない」と事故が大前提の発言をしています。私たちは「玄海原発も事故は覚悟してください」と言われているのです。

貴職は、福島の甚大な犠牲から何を学んだのですか。ひとたび原発の過酷事故が起きると、山や川や大地や海、そこに生きる動物や住民は家を捨て、ふるさとを捨て、一緒に通った学校にも戻れず、何の罪もない住民の生活を奪い去り、先の見えない壊滅的な地域になる。それを、わが国で起きた福島原発事故が教えてくれたのではないですか。なぜ学ばないのですか。命を何より優先すべきです。経済でもエネルギーの問題でもありません。

地方自治体そのものが機能せず、6年経っても9万人もの人々が家に戻れずにいるようなことは、原発事故以外にはないのです。その帰還条件は「福島県だけは20ミリシーベルト/年」という他県の20倍もの被ばくを強いられるということになっています。事故が起きれば佐賀県民は、被ばくを我慢しろというのですか。岸本町長は判断責任者として、玄海町民と佐賀県民にこそ、了解を得てから同意すべきではないですか。

先日、県内5会場で「原子力発電に関する県民説明会」が行われましたが、どの会場も住民からは「原発に対する不信と不安」「フクシマをなぜ学ばないのか」と怒りの訴えが噴出しました。

原発はあまりにも人道的に許されないことがまかり通っていることに、心から憤りを禁じ得ません。放射能の被害は水や食べ物に大きく影響を与え、人や生きものの健康被害につながり、未来永劫に押し付けてしまうと知ったから私たちは訴え続けているのです。

重大事故が起きたら、真っ先に被ばくの危機にさらされるのが地元住民だと思いませんか。貴職の判断は、住民が自然豊かな玄海町に二度と戻れない里になるかもしれない、未来の社会まで決めてしまう重い責任があると自覚を持っていただきたい。

玄海原発で事故が起きれば被害は玄海町にとどまりません。佐賀県内はもとより福岡、長崎、ひいては世界中の人々の生活に影響を及ぼすことは、フクシマで明らかとなりました。その人々の命と財産に貴職の判断が大きな影響を与えるのです。

**玄海原発3・4号機再稼働同意の撤回を強く求めます。**

<賛同団体> 全国から134団体(別紙)

連絡先: 玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会 TEL:090-3949-2103(永野)